

# 台湾で「日本語検定」を広めたい

## －「日本語を学ぶ、広めること」をライフワークとして取り組む－

台湾で、日本語検定を広めたいと活動している洪麗雅さんにご投稿いただきました。日本語が好きで、日本語を学ぶこと、広めることをライフワークとして取り組んでいらっしゃいます。



洪 麗雅  
テクノブロード・副社長（日本）  
雅子事務所代表（台湾）  
音楽人 リヤ麗雅

私は日本語が大好きなので、ワンランク上の正しく美しい日本語、例えば敬語など、日本語の総合的な能力を台湾の人たちに身につけてほしいと思い、日本語を母語とする人のための日本語検定を台湾で普及する活動しております。この検定はもともと日本語を母語とする人を対象としたもので、「日本人レベル」を目指すハイレベルな検定試験です。

外国人向けの「日本語能力試験」1級の合格者にとって、「日本語検定」が日本語力の次のステップアップとしての挑戦するための最適なツールになり得ると思います。敬語や文法、語彙、漢字、表記、言葉の意味と6つの領域から幅広く出題されているので、総合的な日本語力を向上させることができます。

そして、日本語・日本文化学習の延長線として、より一層日本語力を身につけられ、純粋な日本語に対する理解力を高めることもでき、非常に質の高いすばらしい検定内容です。台湾にいる日本の方と台湾の方に強く薦めたいと考えております。

また、3級に認定されれば「高校卒業レベル～社会人基礎レベル」という目安なので、認定者は日本企業への就職や日本の大学に進学する際、プラスになる検定試験です。実際に台湾の高雄にある文藻外国語大学の卒業生は、日本語検定の3級に認定されたことで、日系の大手企業に認められ、短期間で内定をいただきました。

台湾では、日本のマンガ、アニメ、J-POPなどのポップカルチャーやデザイン・ファッションなどの現代文化への関心が高まり、それらを日本語学習や日本の理解に結びつけることが求められています。最近、テレビのコマーシャルでも、日本のものは日本語のまままで放映されるものが増えてきています。恐らく、高校及び大

学に設けられている日本語学科の数が世界で一番多いのは台湾でしょう。ですから、さらに促進していけば、日本語検定の受検者も増えていくと信じております。

現在でも、日本の植民地時代に残された古民家や建物をカフェに改装し、そのカフェのなかに入っている書店には日本関連の書籍がたくさん並んでいます。こうした日本に対する親近感がある台湾で、さらなる日本語普及に取り組んで参りたいと考えています。

「リヤ麗雅」の名前で、「言葉の架け橋」という応援ソングも創作し、人、心、縁を結ぶ言葉の力を歌いました。

言葉の架け橋（日本語検定応援ソング）

<https://www.youtube.com/watch?v=kKb7J95AQRo&t=16s>

私は日本語が好きで、大学は東京の文化学園大学で学びました。学生時代の同級生には台湾、韓国、タイ、中国、フランスとまるで国連のように多国籍の留学生がおりました。共通の言語は日本語。毎日が新しい発見の日々で、情報交換や異文化交流で勉強もより一層楽しくなりました。姉妹校の室蘭短大への研修やホームステイ先のご家族との交流、そして毎年の文化祭のファッションショーへの参加。こうしたたくさんのワクワクした思い出は、私の一生の宝物です。

卒業後は、学んだ日本語を生かすために大手IT企業に就職。交通制御関連の国家プロジェクトの通訳と翻訳、プロジェクトの進捗管理など、日台連携のコミュニケーションにかかわりました。退職後は台湾の代理店の依頼によりeラーニングのコンテンツ制作ツールを日本市場に展開する日本拠点の東京支店長として活動しています。



この「言葉の架け橋」の発表をきっかけに2018年2月にはキングレコードよりCDデビューを果たしました。オリジナル曲「こんな日は逢いたい」「言葉の架け橋」（現在、音楽配信サイトにて世界110か国で配信中）、日本カバー曲の吉幾三氏が作曲・作詞の「ワーアイリー」（我愛妳）を収録。この曲はもともと北島音楽事務所の原田悠里氏が歌っていた曲です。これからは歌で皆様に感動を与えたい、そして心のエネルギーになるような歌を届けていきたいと思っています。